

子どもと読書

子どもたちが同じ本を何度でも読みたがったり、読んで欲しかったりすることはありませんか。

「結末が分かっている本を読んで楽しいのだろうか。」と思うかもしれませんが、子どもたちは結末が分かっているからこそお話の世界を十分に堪能できるのです。

児童図書の定番と言われるものにファンタジーや冒険ものがあります。これらの物語では現実には起こりそうにもない出来事が次々に起こり「ハラハラ・ドキドキ」の連続です。

結末が分かっている、そして読み終わったあとには「現実の世界」に戻ることができるという安心感があるために「ハラハラ・ドキドキ」を十分に楽しむことができ、このことが何度でも読むという行動につながるのです。

また繰り返し読むことでの効用もあります。子どもたちはこれらの「苦しみ」「悲しみ」「楽しみ」など強い心の動き(感情の爆発)を繰り返し読むことで何度も経験し、精神を発達させ感情をコントロールできるようになり、価値観や個性も作り出されていきます。

また読書では多く知識を得ることができ、それにより子どもたちは新しい世界を切り開いていきます。言葉や文字の獲得もそのひとつです。

社会の中で生きていくには知性と感情のバランスが大切で

甲賀市図書館 だより

5いじりん その6

このコーナーでは図書館と本について紹介していきます。

す。しかしながら人間の行動の基本は感情にあります。また知性は感情や感性の上に育ちます。感性が十分に発達していない状態での早期の教育や、年齢より進みすぎた読書など、刺激の与えすぎにも注意が必要です。これはゲームやテレビ番組にも言えることです。

現代人は過剰な刺激が原因で感性が鈍り、心が動かなくなっています。子ども時代の読書は感性を豊かにする上でたいへん重要な役割を持っています。

図書館では子どもたちと本との出会いを大切なものと考え、子どもと本をつなげるためのさまざまな活動を行っています。

問い合わせ

水口図書館	☎ 63-7400 FAX 63-4737
土山図書館	☎ 66-1056 FAX 66-1067
甲賀図書情報館	☎ 88-7246 FAX 88-7005
甲南図書交流館	☎ 86-1504 FAX 86-1505
信楽図書館	☎ 82-0320 FAX 82-3921

みんなの窓

9月は 同和問題啓発強調月間

「差別のない あふれる愛と
希望に満ちた 都市を築こう」
です

「私たちは誰もが「幸せに暮らしたい」「自分の個性や能力を発揮して生きていきたい」と願っています。

そのために一人ひとりに平等に与えられた「人が人らしく生きる権利」これが人権です。

差別をなくすためには

「何も知らない人にわざわざ教える必要はない」、「自分自身は差別をしていないのだから関係がない」という人がいます。

それは間違っています。見て見ぬふりをしているだけです。たとえば差別について何も知らない人が、誤った情報を事実として受け止めてしまえば、そこからまた新たな差別を生み出してしまいます。

その間、差別されている人はさらに苦しみ続けているのです。

「放っておけばよい」とか「関係がない」という考えでは差別はなくなりません。

まずは自分から行動しよう

9月の同和問題啓発強調月間中に、市内の駅や店舗などで街頭啓発活動

を行っています。

この機会に、同和問題をはじめとするあらゆる差別をなくしていきこうという意識を高め、お互いの人格をありのまま受け入れられる思いやりの心を育んでほしいと思います。

まずは自分から何ができるか暮らしの中で身近なところから考え、行動したいものです。

あなたの人権意識を高め、育てていく。そして周囲に正しい理解と知識を発信することこそ「差別のない愛のある都市づくり」の第一歩なのです。

今日も一日ありがとう

感謝の気持ちで振り返ろう

あいの土山福祉会 エーデル土山

問い合わせ 人権教育課

☎ 86-8024
FAX 86-8380



●JR寺庄駅での街頭啓発活動



ふれあいのまち 差別のないまち
9月は同和問題啓発強調月間です。